

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 人形劇団むすび座
公演団体名	人形劇団むすび座

内容
<p>①公演で共演する児童一人一人に、自由な発想で自分だけの「マンチキン」人形を作っていただきます(材料はすべて用意します)。そして完成した人形を動かし、表現する方法をレクチャーします。その後、共演する「ドロシーを歓迎し見送るシーン」の人形の表現方法と空間での動きを練習します。</p> <p>②この「オズのまほうつかい」では、文楽の様に一体の人形を三人で遣う「三人遣い」の様式を取り入れています。その「三人遣い」の操作方法や人形の材質・構造についての説明を行い、実際に「三人遣い」を体験していただきます。</p>

タイムスケジュール (標準)												
<table><tr><td>0</td><td>5</td><td>15</td><td>45</td><td>55</td><td>100</td></tr><tr><td></td><td>あいさつ</td><td>三人遣い人形体験</td><td>共演人形製作</td><td>休憩</td><td>動きの練習</td></tr></table> <p>標準的なタイムスケジュールです。実施される学校のご都合に合わせて調整させていただきます</p>	0	5	15	45	55	100		あいさつ	三人遣い人形体験	共演人形製作	休憩	動きの練習
0	5	15	45	55	100							
	あいさつ	三人遣い人形体験	共演人形製作	休憩	動きの練習							

派遣者数
主指導者(1名) 指導者(2名) 計(3名)

学校における事前指導
ワークショップ実施前に歌の練習用 CD をお渡ししますので、あらかじめ練習しておいていただくと、ワークショップ当日の流れがよりスムーズになります。 ご不安がある場合には、ワークショップ実施前に打合せに伺うこともできます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 人形劇団むすび座
公演団体名	人形劇団むすび座

<p>演目</p> <p>「オズのまほうつかい」</p> <p>*文化庁「文化庁舞台芸術創造活動活性化事業」採択 *「厚生労働省社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財」選定 *児童健全育成推進財団「児童福祉文化賞推薦作品」選定</p> <p>原作：ライマン・ボーム 脚色／篠原久美子(劇団劇作家) 演出／関根信一(劇団フライングステージ) 美術／宮武史郎・小辻賢典 音楽・音響／ノノヤママナコ(マナコ・プロジェクト) 振付・振付指導／LONTO(ラストラーダカンパニー)・服部哲郎(afterimage) 衣装デザイン／長谷川真代 照明／若狭慶大(藤井照明) 合唱指導／板倉恵三子・板倉歌奈子 制作／吉田明子・伊藤博美</p> <p style="text-align: right;">公演時間(90分)※途中10分の休憩をはさみます</p>

派遣者数
役者 8名 + スタッフ 2名 (合計 10名)

タイムスケジュール (標準)							
9:00	11:30	12:15	13:15	13:30	15:00	16:30	
搬入・舞台設置	共演シーン リハーサル	昼食	開場	公演	終演 撤去	退出	
・標準的なタイムスケジュールです。実施される学校のご都合に合わせて調整させていただきます							

実施校への協力依頼人員
0人

演目解説

<あらすじ>

ドロシーは、家ごと竜巻に巻き上げられ、オズの国にやってきます。そこでドロシーは、カカシ・ブリキ・ライオンと出会い、どんな願いもかなえてくれる「偉大なオズの魔法使い」に会うために旅に出ます。

カカシは脳みそ！ブリキは心！ライオンは勇気！をもらうため。ドロシーは、我が家に帰るために…。

<みどころ>

原作も良く知られ、映画やミュージカルなど数多く舞台化されている作品ですが、私たちはこの物語を、ドロシーだけでなくカカシもライオンもブリキも、みんな子どもとして描きました。偶然出会った、孤独で喪失感を抱え、自分に自信がなく自分はダメだと思っている子ども達。彼らは旅をする中で時にはけんかをし、時には補い合いながら、かけがえのない友達になっていきます。登場人物を子どもに設定したことで、古典文学である「オズの魔法使い」の世界はより観客の子どもたちへと近づき、親近感を持って物語を楽しむことができます。観客と一緒に進んでいくドロシーたちの冒険の旅は、子どもたちに仲間の大切さを伝え、子どもたちが自分自身を好きになるきっかけとなることでしょう。

また、存在の多様性を視覚的に表現するため、ワラの詰まった麻袋、無機質なブリキなど、登場人物それぞれの違いを強く意識し、素材感を前面に出した人形デザインにしました。ドロシーたちが自分とはまったく違う存在と出会った時、お互いを否定し排除するのではなく、協力し合って困難を乗り越えていく姿を子どもたちに観てもらい、自分ならどうするだろうと考えてもらいたいと思っています。さらに、明るく軽快な曲と共にお話が次々と展開していくテンポの良さ、疾走感もみどころのひとつです。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本作品に登場するオズの国の住人マンチキン。事前のワークショップで、子ども達一人一人が自由な発想でマンチキンの仲間たちを作り、劇中の歌を歌いながら人形を動かす練習をします。本番当日、竜巻に巻き上げられたドロシーがオズの国・マンチキンに着陸し、エメラルドの国に向かって出発するシーンで子ども達が自分の作った人形を手に登場します。そして俳優達と共に踊り、歌いながらドロシーの旅路を見送ります。

また、事前のワークショップに参加していない児童が劇中の歌と一緒に歌うこともできます。

児童生徒とのふれあい

- ①子どもたちから感想を聞く
- ②俳優たちが人形の動かし方や人形・舞台セットの構造等を説明する
- ③子どもたちの質問に答える

など、全児童との交流の時間をもちます。

子どもたちが退場する際には、俳優たちがそれぞれ人形を持ち、子どもたち一人一人と人形で握手を交わし会話をしながら、子どもたち全員を見送ります。

また、舞台裏や人形を間近に見ながら俳優たちと交流する手段として

- ①舞台の裏側を見学し俳優たちから説明を聞く「バックステージツアー」を行う
 - ②バラシ(片付け作業)を手伝ってもらう
- などの実施も可能です。

